



子牛の下痢症対策は万全ですか？

子牛の下痢は、発症すると体力を損耗し抵抗力も低下するため、肺炎を罹患しやすく、その後の発育に大きな影響を与えます。今号では、子牛の下痢の概要と対策について解説していききたいと思います。

I 下痢の原因

下痢の原因として、

- ① 感染性（病原体によるもの）
- ② 非感染性（消化不良など）
- ③ その他の要因（子牛自身の抵抗力、飼養管理など）

の3つに大別されます。子牛の下痢は、これらの要因が複合的に重なって起こることが多いです。

II 感染性の下痢

コロナウイルスやロタウイルスなどのウイルス、大腸菌やサルモネラ菌などの細菌、コクシジウムなどの寄生虫が原因となります。抗生剤は細菌やコクシジウムにのみ有効で、ウイルスに対しては直接的な効果がありません。

III 非感染性の下痢

代用乳の温度が低かったり、濃度が濃すぎたり薄すぎると消化不良の原因となります。給与量を急激に増減させるのも消化器への負担となります。

IV その他の要因による下痢

出生後の初乳摂取が不十分だと虚弱体質な牛になりやすいです。また、牛舎の風通しが良すぎたり、敷料が濡れていたりすると牛体が冷えて腹冷えを起こします。

V 下痢症の予防対策

- ① 衛生的な管理として、敷料のこまめな交換、消毒をしっかりとこなしましょう。また、哺乳バケツの乳首は雑菌が繁殖しやすいため、毎日お湯洗い、塩素消毒をしましょう。
- ② 代用乳は、45～50℃の温度で溶かし、特に冬季は冷ましすぎないようにしましょう。給与量を変更する場合は徐々にこなつてください。代用乳に、生菌剤や鶏卵抗体入りのA飼料を添加することも効果的です。
- ③ 初乳を十分に摂取できたか確認しましょう（24時間以内に4ℓを目安）。低産歴の牛など、初乳量が期待できない場合は、初乳製剤を追加して給与しましょう。また、子牛への移行免疫を期待し、母牛へ下痢5種混合ワクチンを接種するのも有効です。
- ④ 寒冷対策として、敷料は厚めに敷き、カーフジャケットやネットクウォーマーを活用してください。牛舎内にすぎ間があれば、塞いで冷気が入り込まないようにしましょう。